

「兆しレポート」のとりまとめについて

～生成AIを活用した働き方改革の兆し～

対話型AI「Chat GPT」の登場以降、生成AI（ジェネレーティブAI）が急速に普及しています。活用によって労働力不足などの社会課題の解決が期待されており、既に我が国の産業活動や国民生活に大きな影響をもたらし始めています。

本レポートでは、地域企業へのヒアリングを通じて、中部地域における生成AIの導入や活用検討状況、導入にあたっての課題、活用事例等を取りまとめました。併せて、中部地域の人口推移や産業構造等を分析することで、生成AI導入による地域経済への波及や影響を考察しました。

1. 地域における生成AIを活用した働き方改革の現状

- ・ 国内外で大きなインパクトを与えている「生成AI」は、企業の労働生産性や付加価値の向上等を通じて、新たなビジネス機会の創出や働き方改革を促進するとともに、様々な社会課題の解決に資することが期待されています。
- ・ 生成AIの開発や活用、規制等のルール作りに向けた議論も活発になっています。本年5月に開催されたG7広島サミットでは、生成AIに関する議論の場として「広島AIプロセス」創設が合意され、国際的なルール作りの議論が加速しています。国内では「AI戦略会議」を設置し、リスク対応、利用促進、開発力の強化に向けた事業環境の整備と具体的な支援策についての検討を開始したところです。
- ・ こうした状況下、当局では、中部地域の企業が生成AIを如何に活用し、新たなビジネスを模索しているのかを把握するため、地域企業へのヒアリングを実施しました。
- ・ 結果として、製造業を中心に積極的な導入が進展しており、新商品のデザイン開発や事務作業（議事録や報告書の作成・要約、翻訳、プログラムコード作成、マーケットリサーチ等）に活用する企業も多いほか、特定部門・分野に限定的に導入し、効果検証しながら本格的な導入を目指す企業も見受けられるなど、不確実性の高い現状において、取り巻く事業環境の変化を素早く捉え、柔軟に対応していこうとする姿勢が確認できました。
- ・ 一方、導入に慎重な企業からは「情報セキュリティへの対応」と「複雑な事象の中から判断することに長けたビジネス人材の強化」を課題とする声も聞かれました。
- ・ 企業の競争優位性や価値向上に繋げるために、生成AIの導入を契機として自らを変革し、更なる働き方改革やビジネス革新に繋げようとする兆しが伺えます。

（お問合せ先）中部経済産業局 企画調査課長 吉岡 担当：松永
電話：052-951-2723（直通）